

兵庫県のスナハラゴミムシ亜科

森 正人¹⁾

はじめに

今回は、兵庫県におけるスナハラゴミムシ亜科の記録を整理しておきたい。いつものとおり、掲載記録は種ごとに文献記録と標本記録に分け、文献記録については記載された県内の記録地名と出典情報を明記した。標本記録については、筆者の手許にある県内標本及び知人の採集記録のなかから、原則1産地1例とし、採集頭数・採集地・採集年月日を明記した。採集者については、筆者以外のものは採集者を明記し、筆者採集のものはこれを省略した。生息環境や生態情報、全国分布、基産地などについても知り得た範囲で記述した。

各種解説

スナハラゴミムシ亜科 Licininae

日本には2族3属が知られ、兵庫県産は次の2族2属に整理される。

スナハラゴミムシ族 Licinini

日本ではスナハラゴミムシ属とマルキバゴミムシ属 *Licinus* が知られ、兵庫県には前者が分布する。後者は北海道に2種が分布している。

スナハラゴミムシ属 Genus *Diplocheila*

中型から大型種を含む属で、日本では4種が知られている。県内にはこのうち以下の2種の記録がある。

1. スナハラゴミムシ *Diplocheila (Diplocheila) elongata* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo [Bates, 1873]; 篠山浜谷 [高橋 敏, 2012] .

本州、四国、九州に分布し、海外では中国から知られている。全国的に希な種類で、関東地方では比較的記録や採集事例が多いものの、近畿地方における情報は極めて少ない。近隣府県情報としては、水野・荒田 (2005) が京都府舞鶴市高野台での灯火採集の記録 (複数) を報じている。また八尋 (2000) は滋賀県の記録として大津市瀬田川を報告しているが、この記録は瀬田川河畔林の倒木下で筆者が得た1ペアである。生息環境は河川やため池周辺の水辺周辺で、冬季は土中で越冬成虫が見ら

れる。一見、オオゴミムシ *Lesticus magnus* に体型や大きさ、色彩が似ているが、大顎の形状や上翅翹端、上翅間室の孔点などに大きな違いがある。

2. オオスナハラゴミムシ *Diplocheila (Isorembus) zeelandica* (Redtenbacher, 1868)

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 豊岡, 出石 [高橋 匡, 1982]; 南淡町沼島 [楠井善久, 1992]; 宝塚市安倉 [小田中健, 1993]; 洲本市安乎町, 三原郡沼島 [高橋寿郎, 1998]; 猪名川, 甲東園, 淡路島月山観音, 三田市羽束山, 川西一庫, 見野, 笹部, 大和, 洲本市先山 [高橋敏, 2012] .

【標本記録】1ex, 豊岡市神鍋高原, 13-VIII-2012; 1ex, 佐用町大撫山, 16-Jan-1989; 1ex, 宝塚市境野, 6-VII-2006; 1ex, 加古川市上荘町, 3-I-2009; 3exs, 神戸市藍那, 23-VII-2003; 2exs, 神戸市道場, 3-I-2005; 2exs, 神戸市山の街, 19-I-1977, 田中勇採集; 2exs, 南あわじ市沼島, 6-IV-2017; 2exs, 洲本市先山, 29-II-2000, 田中勇採集; 1ex, 三原町諭鶴羽山, 2-X-1999.

日本では北海道、本州、四国、九州、南西諸島に広く分布し、海外では台湾、朝鮮からも知られている。主として平地に多く、島嶼でもよく得られる。概して乾燥した環境に多く生息するようだが、林内環境で得られことも少なくない。北海道産で得られたものは大変小型、一方南方に向かうほど大きくなるようで、特に沖縄県産は驚くほど大型となる。

カタキバゴミムシ族 Badistrini

日本ではカタキバゴミムシ属が分布している。

カタキバゴミムシ属 Genus *Badister*

日本には6種が分布し、兵庫県ではこのうち3種の記録が確認された。

3. ヨツモンカタキバゴミムシ *Badister (Badister) pictus* Bates, 1873

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 氷上郡 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 但東町 [高橋 匡, 1982] .

【標本記録】1ex(上翅のみ), 家島本島, 19-VIII-1989; 1ex, 豊岡市岩井, 12-X-2011.

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

大阪河内が原産で本州, 四国, 九州に分布している。北海道にも分布するとされていたが, これは Morita (2001) によって *B. sasajii* エゾタカキバゴミムシとして区別された。水辺で見られることが多いが, 採集例が少ないこともあって本来の生息環境が良くわからない。小菅 (1948) によると, 当時から希な種類のように, 巨椋池附近の崖などで冬季採集したことが記述されている。また後年, 京都府舞鶴では, 7 月末に小川の水際泥地の草刈り中に, 多数を発見できたことなども報告されており, 筆者の採集経験などからも, このような水辺の草間泥地が本来の生息環境であろうと考えている。本種はヨツモンキイロゴミムシと呼ばれていたことがある。

4. クロズカタキバゴミムシ *Badister (Baudia) nigriceps* Morawitz, 1863

【標本記録】3exs, 香美町ハチ北高原, 20-VIII-2012; 23exs, 宍粟市音水湖, 14-VIII-2010; 1ex, 青垣町佐治川, 10-VIII-1995; 1ex, 三原町上田池, 29-IX-2001; 1ex, 三原町成相林道, 18-X-2002.

原産地は函館。北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している。本属のなかでは最も記録が多い種類だが, 産地で得られる個体数は概して少ない。唯一, 宍粟市音水湖の湖畔で本種が多数見られる場所があった (森, 2016) が, ここは沢水が浅く伏流して湖に注ぐような立地環境にあり, その伏流周辺の礫を掘ることで多くの個体が現れるような状況であった。時期によっては上翅の柔らかい新成虫が多いことがあり, 幼虫の生息環境でもある可能性がある。本属の種類は成虫の特殊な大顎の形状が, 食餌生物の種類と大きく関わっていると考え, 周囲に見られる生物を探索したがよくわからなかった。

5. チビカタキバゴミムシ *Badister (Baudia) nakayamai* Morita, 1992

【文献記録】日高 [高橋匡, 1982] (キベリカタキバとして記録)
【標本記録】1ex, 宝塚市佐曾利, 27-IV-1995.

原産地は東京。北海道, 本州, 四国に分布している。本種は従来 *Badister marginellus* Bates, 1873 キベリカタキバゴミムシとして扱われていたが, Morita (1992) によって新種として区別された。同時に和名も上記のとおり変更されている。関東地方では記録や採集記例が比較的多いが, 近畿では情報が少ない。

兵庫県におけるスナハラゴミムシ亜科の記録を整理したが, オオスナハラを除いて記録や情報が大変少なかった。この仲間は左右の大顎が非対称の種類が多く, 特殊な食性が示唆されているが, 食餌生物などの生態が解明されていないことが, 情報が少ない要因でもあろう。加藤 (2003) は北海道に生息するエサキマルキバゴミム

シ *Licinus yezoensis* (Sahlberg, 1880) が, その独特のアゴで上手にカタツムリの殻を破って食べることを報告しており, 今後非常に興味深いテーマが提供されている。

また, 近畿地方やその周辺には上記に記録したものの以外で, 古い記録しかない種類や不明なものがいくつか存在している。コスナハラゴミムシ *Diplocheila latifrons* (Dejean, 1831) は, 大阪から記録された (Betes, 1873) が, その後日本からの記録がまったくない。さらに, セスジカタキバゴミムシ *Badister (Baudia) vittatus* Bates, 1873 は大阪河内産の標本で記載され, その後 100 年間記録が無かったが, 比較的最近になって遠く北海道で記録されている (笠原・森, 1986; 堀, 2000)。フトキバスナハラゴミムシ *Diplocheila macromandibularis* (Habu et Tanaka, 1956) は富永 (1998) によって鳥取県岩坪から記録されているが, これについても詳しいことは不明である。いろいろと課題や楽しみの多いグループと言える。

最後に標本記録を提供頂いた田中勇さん (西宮市), 文献を御教授いただいた斎藤琢巳さん (尼崎市) 須田亨さん (群馬県伊勢崎市) に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Bates, H. W., 1873. On the Geodephagos Coleoptera of Japan. Trans. Ent. Spc. London, Part II :219-322.
- Habu, A., 1956. On the Species of *Diplocheila* (Coleoptera, Carabidae) and its Allied Genera of Japan. Bull. Nat. Inst. Agr. Sci. C, No. 6:49-73.
- 堀繁久, 2000. ホソモリヒラタゴミムシとセスジカタキバゴミムシの記録. *jezoensis* (27):115-116.
- 笠原須磨生・森正人, 1986. 日本産歩行虫ノート II : 北海道で再発見されたセスジカタキバゴミムシ. 甲虫ニュース, (73):1-2.
- 加藤敏行, 2003. カタツムリを食べるエサキマルキバゴミムシ. *ゴミムシ*, 知床の昆虫, 北海道新聞社: 141-144.
- 岸田剛二・辻啓介, 1975. 兵庫県多紀郡篠山町附近の歩行虫. *きべりはむし*, 4(1/2):16-25.
- 小菅謙蔵, 1948. ヨツモンカタキバゴミムシ. 昆虫の採集, 富書店: 185-186.
- 楠井善久, 1992. 沼島の甲虫採集記録. 南紀生物, 34(2):103-104.
- 水野弘造・荒田弥五郎, 2005. 荒田家 (京都府舞鶴市高野台) の邸宅内で採集された甲虫類の目録. 地域甲虫自然史第 1 号, 日本甲虫学会, 93pp.
- 森正人, 2016. 兵庫県のゴミムシ—最近の話題. 第 7 回日本甲虫学会大会ゴミムシ分科会講演資料.

Morita, S., 2001. A Revision of the Japanese species of the subgenus *Badister* (Coleoptera). Spec. Publ. Japan Coleopt. Soc. Osaka, (1):381-388.

Morita, S., 1992. Occurrence of a New *Badister* (Coleoptera, Carabidae) in Tokyo Japan. Elytra, 20(2):155-159.

小田中健, 1993. 宝塚の昆虫Ⅱ 甲虫目 (I), 宝塚市.

高橋寿郎, 1998. 淡路島産甲虫目録 (1). PARNASSIUS, 47:1-9.

高橋敏, 2012. ゴミムシ類C. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (2). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, (44);57-170.

高橋匡, 1982. 但馬地方昆虫目録 (予報第7報). IRATSUME, 6:57-76.

富永修, 1998. mt-DNA 分析用に得た中国地方のオサムシの記録. すかしば (46):13-17.

八尋克郎, 2000. 森正人氏によって採集された滋賀県産ゴミムシ類. Came 虫, 158:6-9.

山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録, 氷上の自然第3集. 兵庫県立柏原高等学校生物教室.



1. スナハラゴミムシ



2. オオスナハラゴミムシ



3. ヨツモンカタキバゴミムシ



4. クロズカタキバゴミムシ



5. チビカタキバゴミムシ